



<VOL201.2024.9>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-7-18 ラ・パルク中央 1階 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内  
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

9月の聖句 イザヤ書 40章31節



「しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、鷲のように翼を張って、上ることができる。」

「主題」

国際会長	シャナヴィスカーン(インド)
アジア太平洋地域会長	利根川 恵子
東日本区理事	山田 公平(宇都宮)
北東部長	大久保知宏(宇都宮)
もりおかクラブ会長	長岡 正彦

「より良いコミュニケーション」  
「太陽の輝きと笑顔」  
「ワイズの方向性を見極める」  
「クラブのミッションを育てよう」  
「リーダーの志を、全力で支えよう」

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	東森 聡(たもり)
メネット	井上 優子

令和2024年10月定例会  
日時、場所 10月19日(土)  
18時~20時 (第3土曜日)

ご案内は、別途いたします。

会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさまこんにちは、長岡でございます。  
今月の活動はチャリティランに凝縮されます。23日に行われたチャリティランは前日までの大雨が上がりどんどん天気が回復していき、さわやかな秋晴れになりました。日頃の行いに天も味方をしたのでしょうか。申告タイムと実走タイムの正確さを競う方式により、速く走れば勝ちではなく完走を目指してチームの団結を深める事が出来るルールで行われました。駅伝方式ですので襷を渡していきます。リレー地点でのランナーに向ける応援は心温まるものです。トップチームはわずか2週の周回コースで最後尾のチームに周回遅れの差をつけるスピードでした。

さて、9月24日に夏が突然終わり、朝の最低気温が8度、日中の最高気温が15度、普通の9月になりました。二日連続の雨で伸び放題の雑草達は倒れて地面にへばりついてます。このまま霜が降りて枯れて行くでしょう。秋の収穫は米が本番になります。米騒動ももう終わりです。普通の生活に戻れます、今度は秋が異常に長く続いたらどうでしょう。

9月定例会の報告

2024年9月21日(土)、アイーナで開催。参加者、三田、長岡、濱塚、井上、井上優子、加藤、魚住、千葉、東森(敬称略)以上9名。

ゲストリーダー、渡邊夏生さん(チューバ)、山口満穂さん(しらたま)、滝澤里菜さん(グラ)、青山優菜さん(エア)、高橋快さん(フック)以上5名、全14名の出席でした。

9月定例会を開催しました。暑い夏も終わり9月らしい気候になりました。今朝からテレビのニュースは能登半島の大雨です。甚大な災害になりそうです。会長の挨拶も今年の国際協力募金の中で一緒に能登半島支援募金を行いましょうとお話をしました。能登の皆さん、頑張れなんて言いません。こちらで出来ることは応援しますので、今回もなんとか乗り切ってください。心が折れてしまうかもしれません。でも私たちは日本人です。少しでも力を分けてあげれば、きっと立ち直れるはず。東日本大震災の被災者も支援の輪を頼りに立ち上がってきました。長く応援を続けますので今回もまた苦しみを乗り越えて下さい。

今晚の卓話は、チューバの能登半島被災地支援リフレッシュキャンプの報告です。チューバは夏休みを利用して2週間、富山

YMCAを起点にしてキャンプに参加して被災地の子供や、通常参加の子供たちと共に過ごしてきました。彼のバイタリティ溢れる行動に拍手をおくります。体験した出来事をお話していただきました。



フック



グラ



エア



しらたま

5人のリーダー参加者のご紹介でした。



9月定例会集合写真、これはいい写真です。

## 能登半島被災地支援リフレッシュキャンプ

チューバ 渡邊夏生さん



チューバ

まだまだ震災の傷跡が残る街並みの中を、通るとき記憶にある震災後の仙台の情景が思い出されました。あの時の気持ちと同じ気持ちの子供達だろうと考えながらキャンプに入りました。

始めは「きずなキャンプ」です。30名の子供達で、富山の子が3人、滋賀の子が19人、能登の子が8人でした。私が思っていたより能登の子供たちは元気でしたが、奥底にある恐怖があると感じました。森の探検では、急登を上り、穴を越え、濡れて滑りやすい道を通り、立山の自然を満喫しました。工作では地元の工芸品の焼き板をみんなで作りました。バーナーで板を焦がしその上に絵を描いていきます。キャンプの思い出の一品になったと思います。3日目のキャンプファイヤーで、みんなの思いやこのキャンプで感動したことなどを火が消えるまで語りつくしました。最終日、輪島の子供たちが先にバスで帰り道につきました。残った子供たちが大きく手を振り、見送る姿がとても印象的

## 十五夜の月に、近況を奉納しましょう。

長岡会長：左のお尻が痛いんです。1か月以上痛いのです。よる年波でしょうか、皆さんも体にはお気をつけください。

濱塚メン：チャリティマラソンに参加するため、次男夫婦が帰ってきました。嫁さんはリーダーOGのハードル、子供が生まれています。とっても大きくなっていました。(ハードルが)

井上メン：最近体調がすぐれません。ゆっくり養生します。滝沢市役所から歯の健康で表彰されました。あんまり嬉しくありません。

井上優子：80歳で元気な歯を保ちましょうという事で、井上は優秀賞を貰いました。嬉しそうでしたよ。

高橋快さん(フック)：初めてワイズの例会に参加しました。今年からYMCAの活動に本格参加しています。楽しいです。来年忙しくなってYMCAにこれなくなりそうなので今年度中にたくさん参加しておこうと思っています。

滝澤里菜さん(グラ)：来年の成人式の振袖を決めました。両親と一緒に選んだのですが、さすがに七五三の時の両親から少しだけ年をとっていました。いままで育ててくれてありがとうの気持ちでいっぱいです。来年の成人式が今からとっても楽しみです。

でした

「フレンドシップキャンプ」では、子供が13人低学年のキャンプです。こちらから森の探索からスタートです。森で見つけたものをどんどん記録して行って、これは競争です。多く見つけたグループが勝ちです。NHKが取材にきていて、一緒に行動しながら記録をとっていました。二日目はポイント探し、3日目の遊び場つくりを使用する、栃の実、どんぐり、木の枝などを集めながらポイントを探しました。箱が有リアルファベットの文字が入っています。どんな言葉ができるか楽しみです。3日目の遊び場つくりでは、釣りの広場、紙コップに栃の実を投げ入れるゲームの広場、クリのいがを投げてコップを倒すゲームどの遊びの広場も楽しく盛り上がっていました。

私が滞在した富山YMCAはカフェがあり、一般の方々にも開放しています。実際に参加した感想としては子供に関わるのは大切な事だし、他地域の子供と関わり盛岡のこどもとの違いを感じました。何が?と思うのですが。感性で感じたものなのでなかなか言葉で説明できないものがあります。しらたまやシロクマが合流しての共同参加でした。心強かったです。

三田メン：ユースボランティアフォーラムにリーダーの「フック」と「アイボ」と参加してきました。来年は主催者側になります。頑張ります。薬局の新店舗の建築が始まりました。

魚住メン：朝ドラ「虎に翼」で注目しているのが週ごとのタイトルです。女性に関する諺などを使っているのです。現代に合わせてみると女性差別の言葉が多いですね。意識して使っていると思います。私は同世代の中では人権感覚は高いと思っています。それでも差別意識は無くなることはありません。意識のアップデートは必須ですね。

山口満穂さん(しらたま)：今日で7回目の連続参加です。卒業まであと6回出席を続けます。大学院の合格が決まりました。新潟の上越市に行きます。教員試験の発表が近いですが合格の場合は2年間のお休みをとって、いっぱい勉強してきます。誉め言葉のシャワーというお話を聞きました。大人も子供も、たくさん誉め言葉を送りたいと思っています。

東森メン：学童保育の子供の迎いで大新小学校に行ったとき、「タモサーン」と叫んで向かってきた女性がいました。教育実習中のリーダーの「だんご」でした。子供達も先生とは呼ばず「だんご」と呼んでいるそうです。いいのかな?

加藤メン：土日休みの雨は最高に良いものです。今日は起きてから食事と読書しかしていません。来る収穫繁忙期に向か

って体を休めるいい雨降りでした。

千葉メン: 久しぶりの例会参加です。中津川沿いの柳の木を伐採しました、名物の樹でしたが、「ござ丸」の建物が被害を受けていたので、検討会で十分考察の上伐採がまきました。大事なものをを守るための決断でした

青山優菜さん(エア): 社会学、憲法、法律を勉強しています。が、夏休みホテルのインターンシップに参加してきました。花巻の愛燐館です。他の大学からの参加者と同室の暮らし

は少し緊張。これはキャンプに参加する子供たちの心境でしょうか。すごい体験でした。

渡邊夏生さん(チューバ): 明後日で夏休みが終わります。今年の夏休みは富山に行ったのと、島根にゼミで行きました。今年は学業の単位を十分に獲得できていますので、水曜水泳に行きたいとおもっています。冬のスキーが楽しみです。

# 「フリテン盛岡DAON」

## もりおかクラブの状況報告

9月の出席率	8/15	53 %	ゲスト 5 名	ビジター 0 名	メネット 1 名		
メーキャップ	0 名			9月切手	10 g	累計	155 g
9月のにこにこ	0 円	累計	0 円	焼きそば	0 円	累計	0 円
9月 石鹸	0 円	累計	0 円	りんご	0 円	累計	0 円
9月 献金	0 円			ファンド合計	円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

9月のハッピーバースディ 関係者の皆様、9月の誕生日おめでとうございます。

## 第6回チャリティーラン開催

9月23日、盛岡YMCA主催「チャリティーラン2024」が開催されました。前日までの雨が上がり、絶好のマラソン日和です。

続々参加者が集まってきます。全37チームが集い健脚を競いました。というのは嘘で、ゆっくりランニングを楽しむチームが続出です。それもそのはず、早ければいいのではなくて約6kmのランニングをどれだけ走れるか、想像してゴールまでの申告タイムを設定して、誤差が少ないチームが優勝するルールだからです。

「がんばれ〜」、「走れ〜」、「みんなで一緒にゴールしよう」、「優勝できるぞ」、応援の雨あられ、これです。盛岡YMCAが目指してきたことを、参加チームの選手たちは見事に実践してくれました。全チームゴールした後は、お待ちかねのショウタイムです。インドネシアのダンス、県立大学のさんさ踊り実行委員会が先導するさんさ踊り、輪になって踊りました。



このチャリティーランを成功に導いたのは、盛岡YMCAが全国に誇るリーダー会です。今年度は「セセリ」会長の元130名のリーダーが集結しています。わずか60分で会場の設営を終わり参

加者の受付、ルールの説明、コースの下見の案内、出店の準備、音響テスト、等てきぱきと作業を進めていきます。段取り8分、仕上げは2分、この言葉通り完璧に仕上げました。いつでもスタートできます。競技の運営でも数台のストップウォッチを駆使してゴールタイムを正確に記録、データーを蓄積し表彰状を作成しました。全チームの記録書を表彰式までに完成させました。

かくして、無事終了できたチャリティーランは大成功と言っていると思います。ありがとうございます、君たちのおかげで素晴らしい1日を過ごさせてもらいました。心より感謝いたします。

盛岡YMCA、ワイズメンズクラブの方、ありがとうございました。

## 2024年度北東部会開催

今年度の北東部会が開催されました。9月28日、福島市市民活動センター会議室。「福島の地でのYMCA活動への思い」をテーマに現在の福島の現状、対応、これからの活動などを、講師に大島博幸牧師(福島主のあしあとキリスト教会)を招きお話をいただきました。福島原発の廃炉作業は困難を極めており、発

表している40年後の廃炉はまず困難であるという事です。たった3gのデブリを取り出すための作業は失敗の連続、800tのデブリのなかの3gでさえいまだ取り出せません。帰宅を許された地域でも、いまだにホットスポットと呼ばれる放射線量が高い場所が点在している。声に出して訴える事がはばかれるような雰囲気の中で、どうやって住民の健康を守れるのか。特に子供た

ちの健康被害が気がかりでなりません。大島牧師の話は重く  
しいものでした。続いて山田東日本区理事より

不登校の子供達への対応として、熊本YMCAの伊藤慎太郎さ  
んの講演(リーダーズフォーラムにて)を紹介していただき熊本  
YMCAの取り組みをお話いただきました。

今年度「不登校児童への対応プロジェクト」のための予算が国  
際協会認められ、日本国内3カ所でのプロジェクトが発足しま  
す。盛岡もその候補地に入っています。

不登校の子には、家庭環境、身体的精神的な課題や症状、知  
的レベルの遅れなどで、特に目立った理由となる原因は見い  
だせていない。心理的に当てはまる症状は見い出せない。との事  
ですが、これは本当でしょうか。発達障害の子供達が周囲の環  
境に順応出来なくて不登校になる。と私は思っています。(特に  
説明できる資料はもっていません。)発達障害の中でも年齢以  
上に知的レベルだけが高かったりすると同年代の仲間とは折合  
わず、学校にいてもつまらない、自分の世界で自分のペース  
で物事を行いたい。そんな子が多いのかな、なんて思っていま  
す。決めつけて乱暴なことは言えませんが、過去に学習障害、  
多動性、自閉症、アスペルガーなどの発達障害の研究が発表  
されてきました。おのおのの症状について「そんな子はいな  
い。」「わが校には当てはまらない。」「私の子はそんな子供では

#### 編集後記

少し長くなりますが、「カサンドラ症候群」について。今回の北  
東部会で不登校のお話がでて、不登校児には発達障害の症状  
は見いだせないというお話でしたが、発達障害が本人を苦しめ  
るのは当然ですが、発達障害の人が周囲に与える問題を考え  
ていないような気がします。不登校児に対応するのはありがた  
いことですが、この子供達はもしかして「カサンドラ症候群」な  
のではないのでしょうか。

発達障害の人と長く接していると、家族や友人、教師、職場の  
上司、同僚が、意思疎通がうまくできないストレスや他者に理解  
してもらえない孤独感を抱き、カサンドラ症候群につながって  
しまうといいます。あの子のせいでイライラが募ると訴えても、「優  
しいところもあるし、そんなにコミュニケーションが取れない子に  
は見えない」などと言われ、つらさを理解してもらえない。誰に話  
しても親身になって聞いてくれず、孤独感ばかりが募る。こんな  
ことが日常で起きているとすれば、健常者はまいってしまいます。  
発達障害の本人は何の悪気もありません。それなりに日常をく  
らしているのですから。現実から逃避する解決策として学校に  
行かないという選択肢を選んだのが不登校なののでしょうか。問題  
行動を目の前にして、「絶対に見捨てない、見放さない」という思  
いが強くなってしまうと、かばう関係性が固定化してしまい、気づ  
いたときにはカサンドラ症候群の心身の不調がでてきます。友  
人ですと、このような関係がいつでもあるわけではありませんの  
でボクシングのボディブローのように少しずつ、ストレスが溜まっ  
ていくのでしょうか。

このような事を書くと、「お前は何を言っているのだ」と気を悪く  
する方がいると思います。私は、このカサンドラ症候群で離職し  
そうになり、全力で説得して、励まして、離職を止めた事がありま

ない。」無理解の悲劇が多く発生してきました。そして今日、不登  
校という現実を大人に突き付けられました。私たちはどのように  
対応できるのでしょうか。この問題解決に「不登校児童への対応  
プロジェクト」がスタートするのだと理解します。新しい発達障害  
が表に出てきたのだと思います。

このような重い事柄を短時間の中に凝縮された部会になりました。  
各クラブのアピールが行われ、もりおかクラブはリーダー  
自身が活動費を捻出する活動をワイズが先導する必要性をう  
たえました。何か行動を起こすためにはお金が必要だという事  
です。献金や助成金を獲得してきましたが、継続して費用を獲  
得する事が必要だと話してきました。また、前年度濱塚メンが努  
力した新規会員獲得の行動を東日本区が認め、表彰されました  
がその証としてバッチが送られました。長岡が代理で受け取っ  
てきました。



長岡と大久保北東部長



バッチ、かっこいいです

す。その頃はこんなカサンドラ症候群なんて言葉も知識もありま  
せんでした。「あの人のために、あなたが不利益を受けるのは間  
違っている。職場の問題としてみんなで解決しよう。」としました。

不登校の子供に発達障害の傾向が無いと言われましたが、説  
明がつかないですよ、必ず、発達障害の子が混ざっている  
と思いますし、健常者がカサンドラに落ちいつている場合と、な  
いかもっと別の問題が隠れているような気がします。

それにしても、「不登校児童への対応プロジェクト」がスタート  
するのはとてもいいことです。大いに期待しています。柔軟な発  
想と対応がこの子供達の未来を明るく照らすことを期待します。

後半のページは、自分で書いていても気が重くなりました。い  
ろんな人がいます。絡まりながら社会は回っています。楽しいこ  
とばかりではありません。でも私は、リーダー達と過ごす時間が  
楽しくてストレスを発散できるのです。きっと感動と感謝の気持ち  
が衰えを抑制している事を実感しています。 長岡



エアです



グラです

開会点鐘と、閉会点鐘のリーダーです、頭がいいです